

高校英語授業におけるリテリングの実践

— 効果的なリテリングを目指して —

A Practical Report on Retelling in High School English Classes: Aiming for an Effective Retelling

外国語科 高木 哲也

1. はじめに

2021年12月4日に、本校の第71回教育研究大会（オンライン）が実施され、外国語科分科会の後半は「リテリング活動再考」というテーマで行われた。教科書内容を用いたリテリング（再話）活動（以降、リテリング）は、近年、中高の英語授業で最も注目を浴びているアウトプット活動の一つ（2021, 佐々木）であり、本校では長年英語科の教員が様々な形態で実施してきた活動でもある。研究大会当日は、リテリングの意義や実践する上で注意すべき事項、工夫の仕方等について、全国から参加された教員や学生と共に活発な議論が展開された。また、翌週12月11日および12日に、関東甲信越英語教育学会の第45回群馬研究大会（オンライン）が実施されたが、大会2日目のシンポジウムのテーマが「『自分のことば』で語るリテリング活動—暗唱活動に陥らないための指導の工夫—」であった。そこでは、リテリングの理論やその効果について概略が説明されたのち、中高のリテリング指導実践が共有され、その後様々な質問や話題が提供された。筆者にとって、英語教育現場において、リテリングの関心が高まっていることを改めて強く感じる機会となった。

2. 研究の目的

本稿では、第二言語学習におけるリテリングの理論やその効果について、国内で発表されている実証研究や授業実践研究を概観する。そして、筆者がこれまで実践してきたリテリング指導の課題を整理し、得られた知見を基に今後のリテリングに関する指導改善の方策を導くことを目的とする。リテリングの効果や指導法について整理することや、リテリングの指導改善の方策を提示することは、昨今、日本の英語教育においてリテリングが注目されている故に、多くの英語教師にとっても有益である、と考えられる。

3. 先行研究

3.1. リテリングとは

英語の授業におけるリテリングとは、英文を聞いたり読んだりした後に、原稿を見ないで、その内容を自らの言葉で伝える活動である。卯城（2009）は、リテリングが魅力的な活動である理由として、普段の生活でよく行っている活動のため、学習者は抵抗をあまり感じない点や、昨今の教育で求められる批判的・分析的思考力等を高める、と考えられる

点を挙げている。さらに、相手にわかりやすく伝えようとすることで、頭の中で英文内容が整理され、自分自身も内容理解が深まる点も挙げられる (卯城, 2021)。また、リテリングはディベートやディスカッションに代表される「即興的な産出活動」と比較して難易度が低く、教科書本文を活用することで、有機的に「再生活動+産出活動」となり得る点も、近年注目されている理由の一つと考えられる (2021, 佐々木)。

リテリングには母語で行う「英文の内容理解を手助けするためのリテリング」と、目標言語で行う「アウトプットとしてのリテリング」がある。前者は、第二言語学習において、母語で思考を整理すること自体がテキストの内容理解を促進する、と考えられており、Kai (2009) では日本人英語学習者 34 名を対象に実証実験を行ったが、学習者の英語読解レベルに関係なく、日本語でリテリングを行った学習者が、リテリングを行わなかった学習者よりもテキストをより理解していた、と報告されている。後者は、テキスト内の語彙や表現の定着と自動化を促進する目的で実施され、学習者がリテリングを通して様々な誤りに気づく機会が得られることや、思ったように頭に浮かぶ内容を言語化できない状況を経験することで、今後の学習の動機づけが図られる、と考えられる (2015, 鷺見)。

3.2. リテリングの効果

Kai (2011) は、リテリングの形態（口頭または筆記）の違いが読解の理解度に及ぼす影響を分析したが、口頭のリテリングが筆記のそれよりも効果的だと結論づけた。また、事後アンケートの回答から、リテリングが課される場合に、学習者はよりテキストの重要な部分に注目するなど、様々なストラテジーを使用する傾向だったことがわかり、結果として深い理解を促す効果があるのではないかと述べている。筆記のリテリングは、単に読解する統制群と類似した結果を示したため、口頭のリテリングと比較して、ある意味より純粋な読解の理解度を測ることができる、と述べている。

Yokouchi (2015) は、日本人大学生 53 名を対象にリテリングテストを 4 つの異なるインプット（リーディング&短い本文、リーディング&長い本文、リスニング&短い本文、リスニング&長い本文）で実施して、産出された発話を複雑性、正確性、および流暢性の観点で分析した。結果、「リスニング&長いインプット」の場合に多少評価が下がったものの、総じて、本文の長さやインプットの形態（リーディングまたはリスニング）の違いは参加者の発話の正確性や複雑性に影響しなかった、と結論付けている。

平井 (2015) は、リテリングを利用した 5 種類の形式のテストとその評価ルーブリックを提案している。リテリングが読んだテキストに限定されることなく、難易度は上がるが聞いたテキストに対しても取り組める点や、筆記のリテリングも目的によっては効果的であると述べている。また、リテリングを「再生、言い換え、要約の行為を含むもの」と位置付けて、特に熟達度の高い学習者に対しては、長い英文を読んだり聞いたりする際に、より情報の選択や構成能力が求められる要約を求める形式を提案している。教科書の本文

ではなく、初見の教材を使用して容易に実施できる点や、外部テストとの相関も高い点、評価ルーブリックは学習者の相互評価にも使用できる点等を踏まえて、このテストの利用価値が高い、と結論づけている。

井長 (2019) は、中学1年生を対象に、実験群クラスでは各レッスンの指導後にテスト形式のリテリングを、統制群クラスでは音読テストを行い、2レッスンを指導した1週間後の定期考査で、本文中の語彙や表現を問う問題を課した。また、1か月後に、予告なしで同じ範囲の語彙や表現を問う遅延テストを実施して、それぞれのテストの平均点の差を t 検定で比較したところ、いずれのテストにおいても有意差が認められなかった。ただし、事後テストにおいては天井効果が見られたため、リテリングと音読活動という条件の差が事後テストに影響を与えたかどうかについては判断できない、と述べている。また、遅延テストにおいてはリテリングを行った実験群クラスより、音読テストを行った統制群クラスの方が本文中の語彙や表現を保持していた。リテリングの効果を認めた上で、実際に指導する際はリテリング前に十分なインプットが必要であり、結果的に言語形式により注意が向けられるのではないかと考察している。

鷲見 (2015) は、高等学校普通科3年生を対象に、実験群クラスではテキストの内容を手助けするためのリテリング、およびアウトプットとしてのリテリングを行い、統制群クラスでは、教科書本文の解説や音読活動のみを行い、定期考査で、指導した範囲の新出語彙や表現の定着を比較した。量的分析において有意差は認められなかったものの、質的分析においては、先に日本語でリテリングを行った場合、学習者の習熟度によらず、英語の発話量の向上が見られた。また、習熟度の低いクラスの場合、リテリングの発話の質が低く、自分の言葉で伝えることが難しい様子だったが、それでも新出語彙や表現の定着が見られた点は興味深い。学習者は、試行錯誤しながらインプットとアウトプットを繰り返す中で、テキスト構造、英語の表現、新出語彙への気づきが促された、と考察している。

加藤 (2018) は暗唱に陥らないリテリングを目指し、リテリングまでの指導手順の整理と実践を行い、その効果をアンケート結果と共に報告しており、様々な点でより良いリテリング指導に向けた示唆が得られる。例えば、話す内容が「自分ごと」になるよう、導入時の発問を工夫する点や、新出文法項目を含む英文を再生する際に、必要なキーセンテンスについては暗唱できるほど指導を行う点、本文に関する質問を生徒自身に作成させることで、深い内容理解を促す点、などが挙げられる。また、話の流れや文と文の関係性などを視覚的に示すパラグラフチャートをあえて日本語で行うことで、一度英文を自分なりに言い換えた日本語訳で書き残す必然性が生まれ、生徒は自然と本文とは違った言い回しを使用するよう促される工夫も興味深い。リテリングの発表は、生徒が最低3回取り組めるよう「個人→ペア→グループ→全体」という形態を設定している。さらに、聞き手にリアクションメーカー (Responder) 等の役割を与えて聞き手の育成を図ると共に、発表者の重圧を軽減する工夫をしている。

川上・宮本 (2020) は、高校1年次からリテリング（口頭および筆記含む）を実践してきた高校2年生の生徒195名を対象に、アンケートを実施してリテリングに関する意識調査を行った。その結果、多くの生徒がリテリングは「自分の言葉で表現すること」が難しい、と感じていることが分かった。リテリングは単なる教科書本文の再生ではなく、自分なりに言い換えたり、意見を加えたりする活動であることが理解されている、と解釈できる一方、暗唱活動との区別が十分にできていない、と思われる回答も一定数見られた。ある程度長い期間継続してリテリング指導を行っていても、学習者がその活動の意義や手段を理解できていない場合があることが伺える。

佐々木 (2020) は、第二言語習得を土台としたリテリングに関する理論や、その指導手順、様々な指導法や評価の仕方まで網羅的に扱っている良書である。特に、リテリング（再生活動＋産出活動）に至るまでに必要な指導について手厚く解説しており、あくまでリテリング前に内容理解を伴った再生活動（音読等）が必須であることが確認できる。リテリングについては、単語レベルからパラグラフレベルまで段階的な指導を提案したり、テキストのどの部分が重要度の高い「要点」であるか、あるいは重要度の低い「細部情報」であるか判断させたりすることを提案している。さらに、口頭のリテリングの後に、筆記によるリテリングを行うことで、自分が筆記した英文と本文との比較が可能となり、より分析的に自分の英語について検証することができる、と述べている。また、リテリング指導において、「自己決定理論」の条件を整えることも大事であり、例えば、キーワードの選択を生徒にさせることで「自律性」を高め、負荷の高い活動であるリテリングを行うことができたという感情は「有能性」を高め、ペアやグループでリテリングを行うことで「関係性」を生み出せる、と述べている。さらに、リテリングを高度化させるために、(1) 本文に関する自分の意見を追加することや、(2) 登場人物の気持ちを推測して追加するだけでなく、(3) 本文の続きを推測して追加する、(4) ダイアログ・リテリングを行う、(5) プレゼンテーション・リテリングを行う、といった取り組みも紹介されており、様々なクラス、生徒に合うリテリング指導を行うためには、確かな理論と多くの方策を持っていることが大事だ、と改めて気づかされる。

4. 授業実践振り返り

4.1. 指導手順について

本校の英語科教員は、教科書題材について英語で生徒とやりとりしながら導入すること、を軸に授業を実践している。筆者は特に、コミュニケーション英語で扱われる社会性の高い内容について英語で導入し、内容理解後の再生活動（主に音読）、そして即興的な産出活動への橋渡しとしてリテリング（再生活動＋産出活動）を日常的に実践してきた。以下は、コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱにおいて、各 Lesson の Part1 つを2時間で行う場合の基本的な指導手順である。

[1 時間目]		[2 時間目]	
1.	Warm-up	6.	Oral Review
2.	Oral Introduction	7.	Reading Aloud (Cloze Reading)
3.	Silent Reading for New Words & Reading Questions	8.	Retelling Practice with Your Idea (in pairs)
4.	Explanation	9.	Retelling Presentation with Your Idea (in pairs)
5.	Reading Aloud (Chorus Reading / Buzz Reading / Individual Reading)	10.	Reflection for Retelling
		11.	Writing Comment

資料1 コミュニケーション英語 I・II の授業における指導手順

上記指導手順の 5. および 7. Reading Aloud では文字の音声化を重視すると共に、意味を考えずに音読する（空読み）ことのないよう工夫した音読活動や、音声を利用した Overlapping / Shadowing 活動を授業時間内で可能な限り設定している。これは、後のリテリングを効果的に行うために、英語が苦手な生徒にとって最低限必要なトレーニング活動、と位置付けている。また、9. Retelling Presentation with Your Idea (in pairs) を行った後に、代表生徒 1-2 名がクラス全体の前で発表する機会を設けることもある。聞き手の育成や、発表生徒から多くの気づきを得られる重要な機会と考えているが、クラス全体の前で発表する難易度の高さや、授業時間の都合で、2021 年度の授業ではあまり多く実践できていない。

4.2. リテリング直前の指導（音読活動）

上記指導手順の 7. Reading Aloud (Cloze Reading) では、教科書本文の音読練習後に、内容理解をしながら音読することを促し、自ら英語表現を生み出す段階として設定しており、その後のリテリングで、少しでも教科書本文の語彙や表現が頭に残っている状態を目指して音読練習に取り組ませている（資料2 参照）。

Blank Reading: 内容理解しながら音読しよう！

“I [] a successful player, who’s b [] t [] to achieve a greater challenge th [] mine.”
Roger Federer, o [] of the world’s b [] tennis players, showed great r [] to a Japanese tennis
player. His n [] is Shingo Kunieda. He is one of the t [] wheelchair tennis p [], and has
been ranked first i [] the world f [] many years.

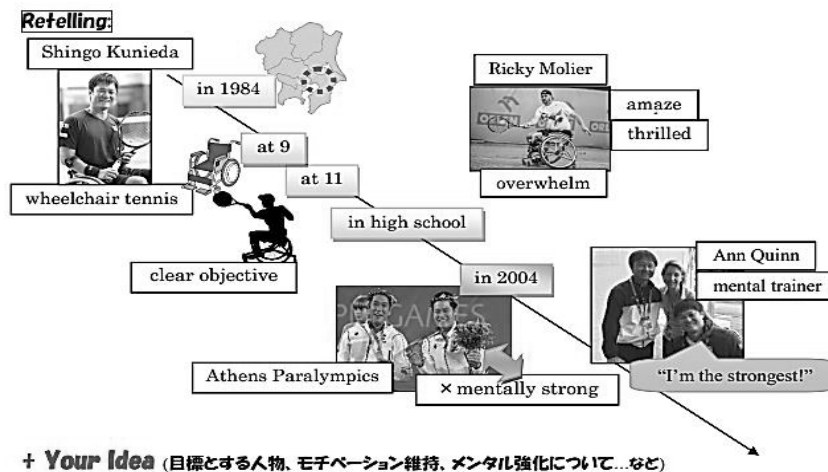
Wh [] tennis is one of the m [] wheelchair sports in the world. It h [] the status of an
official s [] in the Paralympics, and has a [] m [] tournament games a [] regular tennis does. Its
rules are almost the s [] a [] those of regular tennis, except f [] one thing. The players can let
the ball b [] up to two times before re [] it. Wheelchair tennis re [] players to have
the skills to c [] the wheelchair quickly and accurately, a [] w [] a [] the techniques of tennis.
Players also need to p [] careful attention t [] their body condition wh [] they are playing.

(Revised LANDMARK English Communication II (啓林館) Lesson 1 Part 1)

資料2 Reading Aloud (Cloze Reading)

4.3. リテリング用資料の工夫

上記指導手順の 8. - 9. **Retelling** では、リテリング（再生活動+産出活動）が類似のリプロダクション（再生活動）ではない、という点を、パラフレーズ（表現の言い換え）を具体的に例示したり、ペアワークを取り入れて練習させたりすることで強調してきた。そして、常に教科書本文の内容と自分の経験や考えを繋げることで、聞き手により興味深く内容を伝える意識を持つよう促してきた。2021 年度のコミュニケーション英語 II では、提示する写真やキーワードを、話の流れが視覚的に整理されたものから生徒自ら構築する必要のあるものに移行（資料 3-5 参照）して、教科書本文の単なる暗唱にならないよう工夫してきた。授業内でペア練習を必ず実施し、代表生徒が全体発表をすることは必須としていない。



(Revised LANDMARK English Communication II (啓林館) Lesson 2 Part 1)

資料 3 リテリング用写真・キーワード① (難易度低)

Retelling:
 The Nativity Facade
 World Heritage Sites
 sculptor
 Etsuro Sotou(1953-)
 at the age of 25
 Between 1984 and 2005, completed in 2000, majored in sculpture, an impulse to carve stone, leave Japan, not satisfied, another destination, happened to, piled up, asked the head architect, was allowed, test, was accepted, full-time

+ Your Idea

(Revised LANDMARK English Communication II (啓林館) Lesson 6 Part 3)

資料 4 リテリング用写真・キーワード② (難易度中)

Retelling:



500 million tons, mass production, mass consumption, throw away, buried in

popular, Recycling-Based Society, numerous measures, pursue a sustainable society, in the Edo period(1603-1867), achieved, resource, reduced damage to

garbage



+ Your Idea(Part1 は導入です、今回のピックにどのように入るか、工夫してみましょう)

(Revised LANDMARK English Communication II (啓林館) Lesson 8 Part 2)

資料5 リテリング用写真・キーワード③ (難易度高)

4.4. リテリング後の振り返り

上記指導手順の 10. Reflection では、資料6 を使用して、生徒が自分のリテリングの達成度を短い時間で振り返る機会を設けている。また、自由記述コメント欄を各 Part 終わりに設けており、ここではリテリングに限らず、生徒それぞれの学びや感想を日本語でまとめさせている。リテリングに関する記述がとて多く、助言や励ましなど、簡単なコメントを添えて返却している。

Reflection①:

- | | |
|--------------------------------------|-------|
| | △ ○ ● |
| 1. 内容理解をしながら Retelling することができた。 | 1 2 3 |
| 2. 2分-2分半程度の時間内で Retelling することができた。 | 1 2 3 |
| 3. 順序だてて伝えたい内容・意見を伝えることができた。 | 1 2 3 |
| 4. 教科書本文の語彙・表現に固執せず、言い換えをすることができた。 | 1 2 3 |

/12

Reflection②:

●Lesson 8 Part 1 授業で学んだこと (英語面 and/or 内容面)

●質問・感想どうぞ

資料6 リテリング・授業全体の振り返り

5. リテリング指導に関する課題

筆者は、特にコミュニケーション英語の授業において、教科書本文を土台にリテリングの授業実践を継続してきた。日常的にリテリングに取り組む生徒の授業全体に対するコメントを参照すると、生徒はリテリングの言語活動としての意義を理解し、それぞれ目標を持って活動に取り組んでいる印象を受ける。しかし、実際は、授業内にリテリング活動を設定しているだけで十分な「指導」はできていないため、様々な課題が見られる。

リテリングの指導不足		
リテリングに関する生徒の実態把握不足	習熟度に合わせた指導不足	リプロダクション（再生活動）寄り
<ul style="list-style-type: none"> 達成度や英語力向上との関連が不明瞭である。 机間巡視からは生徒の部分的な発話しか聞き取れていない。 代表生徒がクラスの前で発表する機会が減っている。 現状の振り返り、自由記述コメントからわかることは限定的である。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書本文の理解度を測る機会や方法が少ない。 リテリングの様々な方法の実演や説明が不足している。 リテリング用資料は統一の写真・キーワードを用いている。 生徒自身がリテリングパフォーマンスを分析的に振り返る機会がない。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎Part, 文字の音声化+@の音読練習を丁寧に行っている。 教科書本文の一文一文に重みの差をつけずに音読練習させている。 リテリング用資料にキーワードが多く、文法・熟語・語法に関する情報も固定して与えている。

資料7 リテリング指導に関する課題

6. リテリングの指導改善に向けて

本稿では、主に第二言語学習におけるリテリングの理論や効果に関して、これまで国内で報告されている実証研究や実践研究を概観した上で、筆者のリテリング指導を、指導手順やハンドアウト例、意図している工夫について振り返った。そして、得られた知見を踏まえて考察を行い、現状のリテリング指導に関する課題を解決する以下の方策案を導いた。

リテリングの指導改善		
リテリングに関する生徒の実態把握	習熟度に合わせた指導	効果的なリテリングに導く指導
<ul style="list-style-type: none"> リテリングに関する意識について質問紙調査を実施する。 口頭リテリングは録音をさせることや、筆記リテリングにも取り組ませて生徒の達成度を把握する。 机間巡視では特定の生徒の発話を初めから終わりまで見取る。 グループ発表の機会を日常的に設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本語を活用して教科書本文の内容理解度を測る。 リテリングの様々な種類とその難易度や効果について、リテリング活動一覧表（資料9）を共有して、生徒に自ら選ばせる。 リテリング用資料は写真のみ記載して、キーワードは使用を任意とし、スライドで提示だけする。 自分の発話や筆記リテリングを分析的に振り返らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎Part, 音読練習は文字の音声化のみ必須とする。 キーセンテンスを設定して、その英文については暗唱指導を行う。 リテリング用資料は写真のみ記載して、キーワードは使用を任意とし、スライドで提示だけする。 リテリングの相互評価を行わせて、それぞれの目的に沿った効果的な活動になっているか確認させる。

資料8 リテリング指導を改善する方策案

リテリングの種類 (A)		
活動名	教科書本文と比較	難易度
リプロダクション	ほぼ同じ英語表現	易
リテリング	言い換えた英語表現	難



リテリングの種類 (B)			
インプットの種類	難易度	アウトプットの種類	難易度
リーディング	易	スピーキング	難
リスニング	難	ライティング	易



リテリングの種類 (C)					
使用言語	活動の効果	内容理解	活動の効果	発話内容	形態
日本語	内容理解を助ける	前	英語力測定	要点のみ	即興
英語	内容理解＋英語運用力の向上	後	内容理解＋英語運用力の向上	細部情報含	準備時間含



リテリングの練習・発表				
形態	個人	ペア	グループ	全体



高度なリテリング		
1 本文に関する自分の意見を追加する。		
難易度 (易 → 中 → 難)		
暗記する	比較する	提案する
列挙する	推論する	評価する
定義する	解釈する	創造する
2 登場人物の気持ちを推測して追加する。		
3 本文の続きを推測して追加する。		
4 ダイアログ・リテリングを行う。		
5 プレゼンテーション・リテリングを行う。		
6 聴衆と質疑応答を行う。		

資料9 リテリング活動一覧表

(佐々木, 2020 ; Sue Fostaty Youngs etc., 2013) を参考に筆者が作成

7. おわりに

本稿では、近年、日本の英語教育現場で注目を浴びているリテリングを扱い、より効果的な活動にするための方策を考察した。長年実践してきた活動のため、筆者は徐々にリテ

リングの理論やその効果的な指導法について、あまり深く考えなくなっていた。今回、リテリングに関する実証研究や実践研究を概観することで、改めてリテリングが第二言語学習に効果的であり、様々な指導法が報告されていることを学び直すことができた。今後の授業で、本稿で導いた改善策を実施することや、その効果を検証することはもちろん、リテリングに限らず、日々の授業で実施している活動の土台に確かな理論があるか、ある場合、その理論を指導者である筆者自身が理解しているか、自分に問い続けることを心掛けたい。そして、一人の英語教師として、理論と実践の両面を大事にししながら、これからも英語教育研究の一助となるような実践を続けていきたい。

引用文献

- 井長洋 (2019). 「中学校外国語科の授業におけるリテリングの効果」. 『広島大学附属中・高等学校中等教育研究紀要』第 66 号, 81-90
- 卯城祐司 (編著) (2009). 『英語リーディングの科学—「読めたつもり」の謎を解く』. 研究社.
- 卯城祐司 (2021). 『『自分のことば』で語るリテリング活動—暗唱活動に陥らないための指導の工夫—』, 関東甲信越英語教育学会第 45 回群馬研究大会 (オンライン) 要項. 14.
- 加藤淳 (2018). 「リテリング活動に向けた効果的な授業実践の考察」. 『東京学芸大学附属高等学校紀要』第 56 巻, 33-38
- 川上佳則・宮本真衣 (2020). 「情報・経験を基にした主体的な学びを目指した活動」. 『愛知教育大学附属高等学校研究紀要』第 47 号, 71-83
- 佐々木啓成 (2020). 『リテリングを活用した英語指導—理解した内容を自分の言葉で発信する』. 大修館書店.
- 平井明代 (2015). 「授業を活かすストーリーリテリング・テストの活用」. 『大塚フォーラム』, 33 号, 49-69
- 鷺見俊幸 (2015). 「英語授業における再話の効果」. 『中部地区英語教育研究紀要』第 44 巻, 169-174
- Kai, A. (2009). Achieving global coherence through retelling. *ARELE (Annual Review of English Language Education in Japan)*, 20, 41-50.
- Kai, A. (2011). Comparison of two post-reading tasks: retelling vs. recall. *ARELE (Annual Review of English Language Education in Japan)*, 22, 249-264.
- Yokouchi, Y. (2015). Do Input Text Length and Presentation Mode Affect Speaking Performance in Retelling Tasks?. *JLTA Journal*, 18, 115-133.
- Young, S.F. (2013). 「主体的学び」につなげる評価と学習方法：カナダで実践される ICE モデル. 東信堂.